

生活保護費下げ

審査請求相談とぎれず

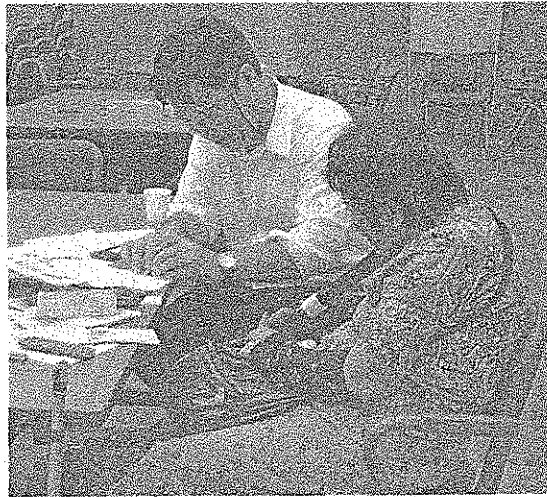
「食費1週間分減額に」 「根拠〃納得できない」

弁護士・司法書士・市民などをつくる「つながる総合相談ネットワーク東京」(宇都宮健児代表)は26日、東京都内で「なんでも総合相談会」を実施しました。同相談会では8月に強行された生活保護基準の切り下げへの審査請求について相談が相次ぎ、27人のうち24人が審査請求することを申し込みました。

同相談会は、生活困窮者を主な対象に2009年3月以来、毎月法律・生活相談を行っているもの。今月は、「全国一斉1万人審査請求運動」の一環として審査請求の申し立ての相談も受けました。

朝10時の受け付け開始から、とぎれることなく相談がつづき、弁護士らが対応しました。

審査請求の申し込みをし



弁護士に相談し、審査請求の申し込みをする女性=26日、東京都内

た、新宿区で1人暮らしの菅川孝之さん(54)は、3月未まで27年間、とび職として働いてきました。椎間板ヘルニアの悪化で歩けなくなり失職。糖尿病もあり、生活保護を利用し始めたばかりですが、8月から保護費を1500円減額されたといいます。

「いまも100円ショップで食材を買い、自炊で節約に努めています。3段階

の減額で来年4月に3000円減らされると1週間分の食費がなくなることに。安倍首相には弱者をいじめな、といいたい」と力を込めました。

都内で1人暮らしの男性(48)は統合失調症を患い、去年の11月から生活保護を利用。8月から1320円減額されたといいます。

「これから就労指導があ

4000円も減額になると思うと、これからやっつけけるかどうか」と不安そうな表情です。

男性は、安倍政権が物価下落などを保護基準引き下げの「根拠」としたことに「どうしても納得できなかった」と訴えます。「生活保護ハッシングで一人ひとり孤立させられているが、審査請求で、みんなで見守ることが大事だと思

う」と話しました。

同ネットワーク東京の事務局長、森川清弁護士は、「いまでも食費をきりつめるなどぎりぎりで生活している、電気料金なども上がっているのに減額は困る」という訴えが多く聞かれました。数百円、千円という額が当事者にとってすごく切実だということを国に理解してほしい」と語りま

保護費減額に抗議

東京で宣伝

生活保護の老齢加算の復活を求める「生存権裁判を前でも宣伝行動をして、今月から生活保護基準が引き下

り、その準備にお金もかかってきます。再来年4月に

げられ保護費が減額されたことに抗議の声をあげました。



30人の参加者が署名宣伝し、次々とマイクを握って訴えました。本多義尚さん(69)は「生活保護基準の引き下げは医療・介護・年金・保育の制度改悪の入り口です。がんばって生活保護改悪を止めさせて、社会保障全体を守りましょう」と力を込めました。

署名に応じた高橋伸江さん(73)は「私は生活保護を受けていませんが、改悪には反対。弱い立場の人にあなたの手をさしのべるのが政府の義務ですよ」と話しました。

生活保護の改悪反対と老齢加算復活を訴える人たち=26日、東京都荒川区